

参考：実ザンショウに使用できる主要な登録農薬（平成19年6月現在）

- 実ザンショウ栽培に使用できる主要な登録農薬です（除草剤、及び除草・殺虫剤は除いてあります。また、表の農薬は、大半が「果樹類」で登録されたもので、サンショウには使わないものも含まれます）。以下の点に注意してください。
- ・ 使用法を守って正しく使用してください。
  - ・ 葉ザンショウは使用できる農薬の種類や使用法が実ザンショウと違います（葉ザンショウは「サンショウ（葉）」あるいは「野菜類」で登録された農薬のみ使用できます）。同じ木から葉と実を両方採取する場合、両方に使える農薬（農薬の名称に下線のあるもの）を厳しい方の基準で使ってください。
  - ・ 販売店によっては取り扱っていない農薬があります。
  - ・ 農薬登録は、随時、登録内容、品目が変わります。販売店で最新の情報を確認してください。

病害虫名称	農薬の種類	農薬の名称
紫紋羽病	カーバム剤	NCS、三洋NCS(すべて植栽時のみ)
さび病	クレソキシムメチル水和剤	ストロビードライフフロアブル、クミアイストロビードライフフロアブル、日産ストロビードライフフロアブル、日曹ストロビードライフフロアブル
	マンゼブ水和剤	クミアイベンコゼブ水和剤、三共ベンコゼブ水和剤
	銅水和剤	Zボルドー
切り口及び傷口のゆ合促進	チオファネートメチルペースト剤	トップジンMペースト
アゲハ類	BT水和剤	バシレックス水和剤
チャノキイロアザミウマ	アセフェート水和剤	オルトラン水和剤、ホクコーオルトラン水和剤
	クロルフェナビル水和剤	コテツフロアブル、クミアイコテツフロアブル、日曹コテツフロアブル、ヤシマコテツフロアブル
ゴマダラカミキリ幼虫	アセタミプリド水溶剤	モスピラン水溶剤、日農モスピラン水溶剤 (葉ザンショウも採取するときはゴマダラカミキリは不可)
アブラムシ類	オレイン酸ナトリウム液剤	オレート液剤
ゲンバイムシ	エチルチオメトン粒剤	ダイシストン粒剤、ヤシマダイシストン粒剤、サンケイダイシストン粒剤、TD粒剤（すべて苗木のみ）
ハダニ類	アセキノシル水和剤	カネマイトフロアブル
	ピリダベン水和剤	サンマイト水和剤
	プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル乳剤	アカリタッチ乳剤
	マシン油乳剤	クミアイアタックオイル(ミカンハダニ用)
越冬病害虫	石灰硫黄合剤	サンケイ石灰硫黄合剤、海野石灰硫黄合剤、宮内石灰硫黄合剤、余市組合石灰硫黄合剤、ヤナイ石灰硫黄合剤、カネナカ印石灰硫黄合剤、塩山石灰硫黄合剤、キング石灰硫黄合剤、細井石灰硫黄合剤、大塚石灰硫黄合剤
カイガラムシ類		マシン油乳剤
コスカシバ雄成虫	チェリトルア剤	スカシバコン
ハマキムシ類	BT水和剤	トアロー水和剤CT、ガードジェット水和剤、トモノガードジェット水和剤、ゼンターリ顆粒水和剤、ホクコーゼンターリ顆粒水和剤
シャクトリムシ類		エスマルクDF
ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモシンクイガ、モモハモグリガ、リンゴコカクモンハマキ	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア・ピリマルア剤	コンフューザーMM
ミダレカクモンハマキ、リンゴコカクモンハマキ、リンゴモンハマキ、モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤	コンフューザーR
チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、リンゴコカクモンハマキ、リンゴモンハマキ、モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ、スモモヒメシンクイ		コンフューザーN
チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、ミダレカクモンハマキ、リンゴコカクモンハマキ、リンゴモンハマキ	トトリルア剤	ハマキコン-N
モモシンクイガ雄成虫	ピーチフルア剤	シンクイコン
その他	展着剤	アピオン-E、バンガードKS-20、スカッシュ、ラビデン3S

# 実ザンショウ栽培こよみ

(平成19年度 南丹版)

## 最初に

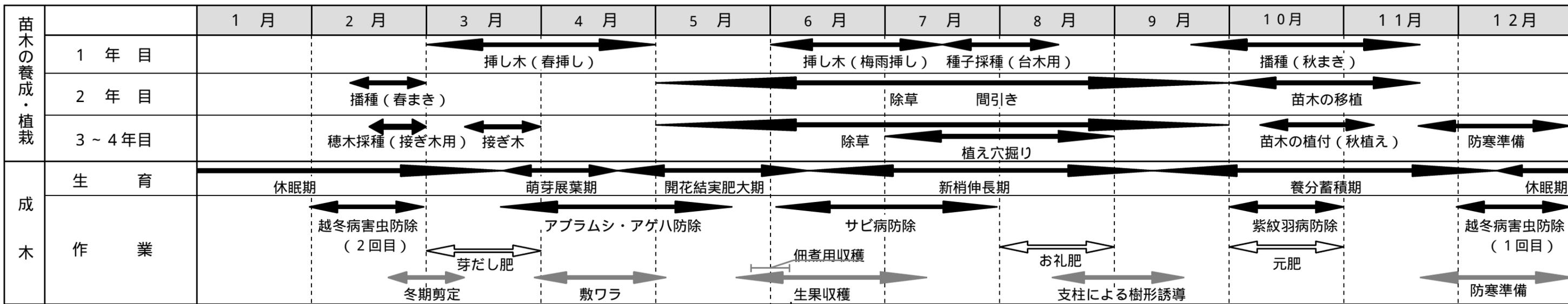
農薬に関する法律の改正が相次いでいます。農薬の取扱いに関する法律が改正され、前回の栽培こよみで紹介した農薬は、石灰硫黄合剤以外、使えなくなりました。

実ザンショウは「サンショウ（果実）」、「サンショウ（実）」、または実ザンショウを含む「果樹類」（「落葉果樹」、「果樹類（を除く）」等も含む）で登録された農薬だけを、登録された方法でだけしか、使用できません。容器に書いてある使い方をよく読んで使用してください。

また、食品に残留する有害な化学物質に関する規制が厳しくなりました（ポジティブリスト制度の導入）。今までは、作物毎に規制対象となる農薬が決められていたのですが、今後は、無害と認められた物質以外はすべて規制対象になります。基本的には、登録された農薬だけを、登録された方法どおりに、正しく使用していれば、心配することはありませんが、隣接する田畑で使用した農薬がサンショウに付着した場合も規制の対象になります（ドリフト被害）。  
ご注意ください。

この資料に関するご意見、ご質問は

- ・ 京都府南丹広域振興局 農林商工部 農林整備室 林業振興担当  
〒621-0851 京都府 亀岡市 荒塚町 1-4-1  
TEL (0771) 22-1017 FAX (0771) 21-0118



1. 栽培適地  
 サンショウは気象害や紫紋羽病の被害を受けるので、これらが発生しやすい場所は避けます。  
 ・ 排水良好な砂質壤土で土の肥沃な場所が適する。  
 ・ 夏に乾燥しすぎたり、地下水位が高い場所は枯死しやすいので避ける。  
 ・ 紫紋羽病の発生しやすい、排水の悪い場所、茶園、桑畑、サツマイモ畑跡等は避ける。

2. 苗木の養成  
 サンショウは木に雌雄があり、接ぎ木か挿し木で増やします。  
 接ぎ木の台木はサンショウかイヌザンショウで、丈夫な山引苗や実生苗を使います。  
 ・ 種子播種(台木用)：まく時期は春まきがよい。種は保存中に乾燥しないよう注意する。  
 ・ 穂木：変異を起こして実の付きが悪くなる枝があるので、良い枝を選ぶ。  
 ・ 接ぎ木時期：適期(3月中~下旬)を外すと失敗しやすい。  
 ・ 挿し木：3~4月の春挿しと6~7月中旬の梅雨挿しがある。

3. 苗木の植栽  
 ・ 苗木の植え付け時期：秋植えが適する。但し、植栽が遅れ、11月までに植えられなかったときは、凍霜害を受けやすくなるので、無理に秋植えせず、春植えする。  
 ・ 苗木の植え方：植え付け後は必ず敷ワラを行う。また、サンショウは凍霜害を受けやすいので、植え付けから1~2年は、ワラ帽子等の防寒準備をしっかりと行う。  
 植え付け間隔は以下を参考。  
 ア 土があまり肥沃ではない場所：列間2.5m 株間2.0m 植栽本数 200本/10a  
 イ 土が肥沃な場所：列間2.0m 株間2.0m 植栽本数 250本/10a

育成管理  
 サンショウは、収穫を容易にするため、できるだけ樹形を低く仕立てたいところですが、「刃物を嫌う」ので、成長してから樹形を変えるのは困難です。苗木植栽後3年目までに支柱による誘導と冬期の軽い剪定で樹形を整えます。剪定の代わりに、6月に枝を捻って成長を止める方法もあります。  
 また、サンショウは隔年結果になりやすいので、結果量の調整等で隔年結果を防ぐことも大切です。  
 ・ 樹形の誘導：支柱を使って枝を横に引っ張って広げ、冬期に軽い剪定で枝を切り詰める。これを繰り返し2m位の樹高に立てる。  
 ・ 隔年結果対策：冬期剪定で弱い枝を間引く。また、実をつけた枝は弱るので、全部の枝に実をつけると翌年の結果が悪くなる。摘蕾等で、実のつき具合を調整する。  
 ・ その他、注意事項：深耕で太い根を切らない。除草剤は使用しない。敷ワラ等で乾燥を防ぐ。

病害虫防除  
 サンショウの主要病害虫の防除法は下表のとおりです(各農薬の詳細な使用法は容器の説明を参照)。  
 サンショウはデリケートで、薬害が発生することがあるので、薬害の発生しにくい落葉期に、石灰硫黄合剤による防除をしっかりと行い、越冬している病害虫を駆除してしまいましょう。

病徴等の特徴		防除法
紫紋羽病	木が成長不良になり、ついには枯死する。 地際や根が紫褐色の堅密なカビに覆われる。	・ 紫紋羽病の発生しやすい場所(「ほ場の選定」の項参照)への植栽を避け、植え穴に肥料として入れる粗大有機物にナラ・クヌギは使わない。 ・ 痛んだ根は病気になりやすいので、植栽時に切り落とす ・ 土壌の消毒は、苗木植栽前に1回だけ行える。30cm間隔で、千鳥に深さ30~50cmの穴を掘り、カーバム剤(NCS等)の原液を、一穴あたり、3~5ml入れて、ビニールで覆い7~10日被覆して燻蒸消毒する。
サビ病	葉が縮み、裏側に灰白色、橙色、褐色等の小さい斑点ができる。	・ 窒素過剰になると発生しやすいのでリンやカリもバランスよく施肥する。 ・ 風通しが悪いと発生しやすいので枝葉が混み合わないよう整理する。 ・ マンゼブ水和剤600倍希釈液(クマイペンコゼブ水和剤等 100~300リットル/10a 3回以内)を最終収穫後~7月、遅くとも落葉までに散布する。
越冬病虫害	カイガラムシ等、越冬病虫害全般の防除。	・ 落葉果樹(越冬病虫害)で登録されている石灰硫黄合剤(サンケイ石灰硫黄合剤等。次頁表のものは全て該当)を使用し、12月と2月の2回、7~10倍希釈液を散布する(量、回数制限なし。時期は落葉期、発芽前に限定)。
アブラムシ	スス病の原因。また、商品に混入して価格を低下させる。	・ オレート液剤100倍希釈液を、発生初期(3月)~収穫前日まで散布する(量、回数制限なし)。
アゲハ類	春~初夏に幼虫が葉を食害する。著しい被害が出ることもある。	・ 発生期にこまめに畑を巡回し、幼虫を捕獲して焼却する。 ・ バシレックス水和剤(BT剤)1,000倍希釈液を発生初期、収穫前日までに4回以内で散布する(量の制限なし。他のBT剤を使用する場合、バシレックス水和剤と合計で4回以内の散布になるよう注意する)。

サンショウは秋の元肥と追肥2回、計3回施肥します。施肥量と時期は表を参考にしてください。元肥は、木を長持ちさせるため、有機質を主にします。追肥は3要素を含む市販の液肥を用い、300~500倍に希釈して施肥します。

表 施肥計画の一例(10aあたり 200本植栽時)

肥料名	施用時期	植栽年数					
		1~3年	4~6年	7~13年	14年以上		
元肥	10月	堆肥	2,000 kg	3,000 kg	4,000 kg	5,000 kg	
		鶏糞	100	150	250	300	
		油粕	60	90	150	200	
		木灰	100	150	200	250	
追肥	芽出肥	3月	液肥	5	10	15	20
	お礼肥	8月	液肥	5	10	15	20

・ 肥料のまき方  
 幼木(植え付け後3年まで)は株のまわりに溝(深さ20~30cm、幅20cmくらい)を掘り施用する。  
 成木(植え付け後4年以降)は敷ワラの上から全面施用する。